

平成31年度が始まりました。

古川 直浩

この4月から、府中工業高等学校長に着任しました古川 直浩（ふるかわ なおひろ）と申します。どうぞ宜しくお願いします。

4月8日に始業式、9日に入学式を終了し本格的に新学期が始まりました。新入生は緊張した面持ちではありますが、第一歩を踏み出せたと思います。どのクラスも落ち着いた雰囲気となっています。初日から挨拶をきちんとしてくれました。

今年度は、以下のような取組を中心に行います。

- ・ 卒業後（1年間）の生徒の離職状況を把握します。
 - ※卒業後の離職者へのサポートを開始します。
 - ※全サポーター企業と連携します。
- ・ 資格取得に向けた取組を強化します。
 - ※本校3か年の[ロードマップ](#)（昨年度版）の活用等
- ・ 府中工業サポーター企業53社を活用したキャリア教育を実施します。
 - ※むさし府中商工会議所と連携を一層強化します。
- ・ 地元企業と一層連携していきます。
 - インターンシップをできる限り地元で行います。
- ・ 遅刻を減らす取組を強化します。

詳細は、学校経営計画をご覧ください。

工業高校に赴任してあまり知られていない工業の中身についてお知らせします。工業高校が如何に手厚く生徒を指導しているかがわかる側面を中心に、外からは、見えにくい部分を紹介します。

～府中工業高等学校の紹介～

本校は、昭和38年に開校した工業系の専門高校で、機械科（M）・電気科（E）・情報技術科（C）・工業技術科（T）の4つの科があります。クラス数は、電気科が2クラスで機械・情報技術・工業技術の3科は各1クラスの計5クラス編成です。今年度の1年生は、総数175名（定員）で、1クラス35人編成です。1組が機械科、2組が工業技術科、3組が情報技術科、4組と5組が電気科となっています。各科ごとのクラス編成なので、3年間クラス替えはありません。

朝、登校しますと、中学校と同じように普通教室に入ります。朝のショートホームルーム（朝学活）を行い、授業が始まります。普通教科等はホームルーム教室を使います。



本校に進学した生徒には、様々な理由があると思います。本校には、普通科では学べない多くの技術・技能を学ぶことができます。その技術・技能をきちんと学んで身に付けるとともに資格を取得することで工業高校を卒業する意味が生じるのだと思います。5つ以上の取得を目指すことにしています。今後、より難易度の高い資格や検定への挑戦を期待しています。

実習授業ですが、何と4T授業が行われています。これは、1コマの実習授業に4人の教員が付き、概ね9人に1人の割合で実習を担当します。このことにより、危険な機械等を使用する実習の安全管理を徹底しています。非常に手厚い体制になっています。



非常に素晴らしい生徒玄関です。オープンで爽やかなイメージです。



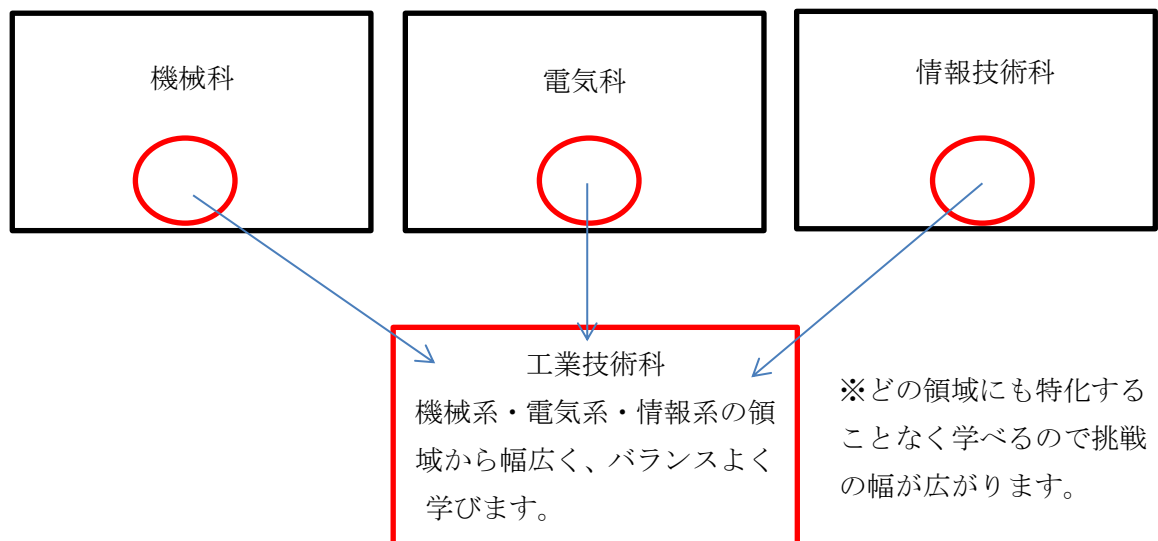
生徒玄関2F（広い廊下）



校舎中央には、広い中庭空間があります。

★機械、電気、情報技術の各科はイメージしやすいのですが、府中工業高校にしかない工業技術科がやや分かりにくいのでイメージ画にしてみました。

工業技術科のイメージ



進路は、概ね就職が70%、大学・短大が10%、専門学校が20%となっています。資格取得に力を入れています。

本校[資格等取得3か年のロードマップ](#)を作成し、早期の段階から3か年の資格取得を意識付けています。今年度は、一層資格取得強化に取り組めます。取得した資格や検定が、直接自分の目指す企業の業種とは異なっていることも、持っていること自体が社会人としての自信となり、様々な提案・改善が自信をもってできるようになります。特に国家資格等の公的な資格には、取得しなければ従事できないものが多いので、一層メリットが大きいといえます。

このように、資格の取得に力を入れるのは専門高校の強みと言えます。ですから、生徒には、この強みを最大限に活用して欲しいと思います。中学校では、思うように学業が振るわなかった生徒も、本校で難関な資格に挑戦し見事に合格している生徒が多く存在します。



昇降口はなかなか壮観です。